兵庫県教育委員会丹波教育事務所　学校問題サポートチーム

TNBだより

令和５年３月号

令和4年度もあとわずかとなりました。学校では、本年度の教育活動を振り返り、来年度への見通しを立てられる時期でしょうか。子どもたちの成長や笑顔、進路を大切に考え、努力してこられた先生方に深く敬意を表します。

この１年間、それぞれの学校や学級で、工夫と情熱を込めた経営がなされていることを拝見してきました。新年度のために、ぜひ教職員の皆さんの元気が出るような振り返りを行ってください。

「黒衣(くろご)」の学校経営　～「謝」の心で生かされて～

丹波市立東小学校　浅田尚克

まもなく 38 年間の教職人生を終えようとしています。今日まで勤めてこられましたのも、ご縁をいただいた全ての皆様方からの温かいご指導やご厚情の賜物と深い感謝の気持ちで一杯です。38 年間の内、20 年間を学校現場で、18 年間を教育機関や教育行政など学校現場の外から教育に携わりました。全く思いもよらぬ波乱万丈の教職人生でしたが、今は、それぞれの職場での得難い経験と学びが未熟な自分を成長に導いてくれたと感謝しています。

中でも、社会教育に携わる機会を得たことは大きなプラスでした。学校現場ではきっと知り合えなかった数多くの方々との出会いとネットワークは、今も私にとっての貴重な財産です。そうした人々から、相手の心に「謝」を届ける大切さを学びました。「謝」は、感謝の謝（ありがとう）、謝罪の謝（すみません）と、中身の異なる両面を含んでいますが、日々、「謝」の心を持って相手に接し、敬意や誠意を込めて「謝」を相手の心に届けることが大切だと学びました。社会教育は、社会の中で人と人を繋ぎ、人々が生きがい、やりがいを実感でき、一人一人が持てる力を自分らしく発揮できるステージで、生き生きと輝いて活躍できるようにコーディネートする仕事でした。人々の輝く笑顔や元気な姿が広がるステージづくりにやりがいや喜びを感じる、いわば「黒衣」のような役割は、いつしか自分に合った自分らしい自然なあり様に思えるようになりました。

教職人生の最後には、校長の職を担わせていただきました。社会教育で学んだことは、学校教育にも相通じており、「謝」の心を大切にして「黒衣」の学校経営を進めました。学校教育のステージで生き生きと輝き活躍すべき「主役」は子どもたち、そして先生方です。「黒衣」は「主役」のステージづくりに向け、子どもたちや先生方の心に日々、「褒める」「認める」「励ます」「労う」の4つの言葉かけで「謝」を届け続けること。各勤務校では、その時々に様々な課題がありましたが、各先生方が高いモチベーションを保ち、常に前向きにやる気や意欲を持って積極的に学校づくりに参画し、チームとして力を結集し「学校力」を高め、子どもたちの教育の充実に確かな成果を上げていただいたこと、本当に感謝の気持ちで一杯です。

38 年間は、お世話になった全ての皆様方に生かしていただいた教職人生でした。最後になりましたが、皆様方のご健康と今後ますますのご活躍を心よりお祈りしております。

38年間の歩みを振り返って

丹波篠山市立今田中学校長　田端 俊典

昭和60年に採用となり、宝塚市の中学校に12年間、丹波篠山市の中学校に26年間お世話になりました。38年前、3月31日まで学生という教わる立場から、翌日目を覚ますと教える立場になることに大きな違和感と不安を抱いていたことを今でも鮮明に覚えています。

初任校は、小規模校であったため保健体育の担当は私一人。何もかもが手探り状態でした。それから3年が経ち、特別活動の主担当となり、年間の行事すべてを担当することになりました。一つの行事の取組期間中の職員会議で次の行事の提案をするというような生活が4年ほど続きました。目まぐるしい忙しさでしたが、生徒会の改革や新たな行事の立ち上げ等、当時の学校長をはじめ先輩の先生方にサポートしていただき、本当に好き勝手にさせてもらい、忙しい中にもとても充実した時期でした。生徒を生かす行事の企画・提案から事後指導まで試行錯誤の連続でしたが、大変勉強になりました。この経験で得た「教師の固定概念で生徒を見てはいけない」「いかに教えるかではなく、いかに学ばせるか」「発想と実行」「本物に触れることの大切さ」が私の教職人生のベースとなりました。また、保護者や地域、関係機関との連携の大切さを実感した期間でもありました。

管理職になってからは、個々の職員の持ち味を発揮できるようにするための人材配置及び、それらのベクトルを一方向に向けるというマネジメント力が非常に大切であることや組織の大切さと組織力の凄さを日々感じながら今日まできました。

喜びや悔しさや感動を分かち合えた多くの生徒と、今まで支えていただいた多くの教職員の方々、保護者の方々、関係機関の方々に心より感謝申しあげます。本当にありがとうございました。

今年度末で退職される皆様を代表して、2月号と3月号に、4名の校長先生の想いを掲載させていただきました。大変ご多用の折にもかかわらず、ご執筆いただきありがとうございました。永年に渡り子どもたちのため、学校のためにと、教育活動にご尽力されましたことに深く感謝申し上げます。

本年度、兵庫県教育委員会丹波教育事務所で、学校問題サポートチームが編成されました。少しでも学校や先生方のお力になれればという思いで、学校の支援活動をしてきました。学校訪問や研修会等に際しては、各校に様々なご配慮をいただきありがとうございました。要請をいただき、SC 冨永良喜と学級担任の協働で心のサポート授業も 5 校で実施しました。今後もこうした取組が広がるように努めていきます。

学校支援にあたり、両市教育委員会には多大なご理解、ご協力をいただきました。感謝申し上げます。

各学校で伺った取組や課題については、教育・警察・福祉・臨床心理の視点を合わせ、サポートチームで分析や検討をしております。多くの学校に役立つ取組や共通する課題について、研修会や TNB だより等で少しずつお知らせしてきました。何か 1 つでも先生方のお役に立てておればうれしく思います。

学校に関わるすべての皆様が、元気で健やかでありますようにと願っております。

梅田（教員 OB）　中道（教員 OB）　足立宏（教員 OB）　足立恵（教員 OB）　田村（警察 OB）　谷口（SSW）　冨永（SC）